

杉並区内の都市計画道路に係る  
交通量推計ほか業務委託

報 告 書

平成27年3月

杉並区都市整備部土木計画課  
ジーアンドエスエンジニアリング株式会社

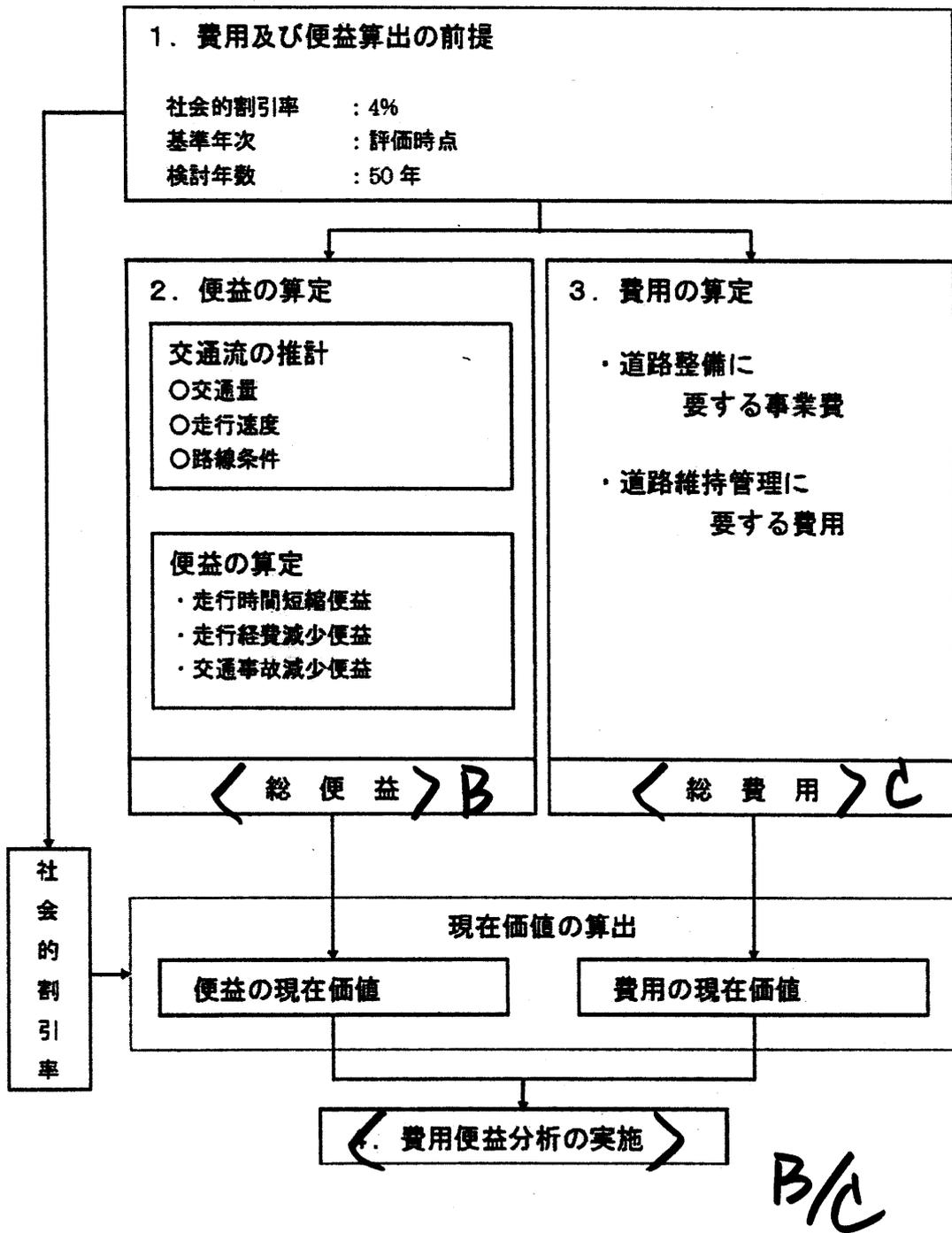


図 3-1 概略検討フロー

(4)分析B「補助第132号線」のB/C算出

①前提条件

補助132号線の費用便益分析資料として、「費用便益分析マニュアル（国土交通省道路局、都市・地域整備局・平成20年11月）」に基づいて同道路のB/Cを算定した。

1) 供用年次と便益の考え方

補助132号線の供用形態は、以下の通りである。

- 基準年：平成26年度
- 供用年：平成37年度（便益初年は平成38年度とする）
- 供用延長：L=1.14km
- 単年度便益算定年次：平成37年

平成37年便益については、ケース2（補助第132号線整備）における走行時間費用、走行経費、交通事故損失額から、ケース0（）の各費用を削除した額を平成37年の単年度便益とした。その他年次（供用年以降）の便益額は、平成17年道路交通センサスの関東臨海ブロックの車種別走行台キロ将来変化率を勘案して推計した。

（手書き） 4年減少 ⇒ 11年この4年を減らす。

2) 費用の算定

補助132号線の全事業費は、80.2億円（うち用地費は36.5億円）であり、投資計画は以下の通りとした。

表3-15 補助132号線の事業費

年度	全体事業費 (百万円)	うち用地費 (百万円)
平成28年度	-	
平成29年度	3	
平成30年度	12	
平成31年度	258	
平成32年度	1,135	
平成33年度	2,410	
平成34年度	2,590	
平成35年度	1,368	
平成36年度	137	
平成37年度	107	
合計	8,019	3,650

の比率を全体事業費で按分

3) 維持管理費

維持管理費は、費用便益分析マニュアル（国土交通省・平成15年8月）に記載された、一般都道府県道の単価を用いた。

$$\text{維持管理費} = 2.7 \text{ 百万円/km} \times 1.14 \text{ km} = 3.1 \text{ 百万円}$$

4) B/C算出結果

補助132号線のB/Cは、0.5と算定された。

費用便益分析の結果				様式-2
路線名	事業名	延長	事業種別	現拡・B P・新設の別
都市計画道路	補助 第132号線	L = 1.14 km	区道	現拡
計画交通量 (台/日)	車線数	事業主体		
7,300~10,300	2	東京都杉並区		
<b>① 費用</b>				
	事業費	維持管理費	合計	
基準年	平成26年度			
単年合計	80億円	1.4億円	82億円	
基準年における 現在価値 (C)	56億円	0.4億円	57億円	
<b>② 便益</b>				
	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成26年度			
供用年	平成37年度			
単年便益 (初年便益)	1.7億円	0.4億円	0.0億円	2.2億円
基準年における 現在価値 (B)	22億円	5億円	1億円	28億円
<b>③ 結果</b>				
費用便益比 (事業全体)	0.5			
経済的純現在価値 (事業全体)	-29億円			
経済的内部収益率 (事業全体)	1.7%			
注) 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。				